参考様式３－１

カリキュラム（第一号研修・第二号研修）

１　基本研修（講義）　　（単位：時間）

大項目	中項目	必要時間（注1）	実施時間（注2）
１　人間と社会		1.5	1.5
	(1) 介護職員と医療的ケア	0.5	0.5
	(2) 介護福祉士等が喀痰吸引等を行うことに係る制度	1	1
２　保健医療制度とチーム医療		2	2
	(1) 保健医療に関する制度	1	1
	(2) 医行為に関係する法律	0.5	0.5
	(3) チーム医療と介護職との連携	0.5	0.5
３　安全な療養生活		4	4
	(1) たんの吸引や経管栄養の安全な実施	2	2
	(2) 救急蘇生法	2	2
４　清潔保持と感染予防		2.5	2.5
	(1) 感染予防	0.5	0.5
	(2) 職員の感染予防	0.5	0.5
	(3) 療養環境の清潔、消毒法	0.5	0.5
	(4) 滅菌と消毒	1	1
５　健康状態の把握		3	3
	(1) 身体･精神の健康	1	1
	(2) 健康状態を知る項目（バイタルサインなど）	1.5	1.5
	(3) 急変状態について	0.5	0.5
６　高齢者及び障害児･者の「たんの吸引」概論		11	11
	(1) 呼吸のしくみとはたらき	1.5	1.5
	(2) いつもと違う呼吸状態	1	1
	(3) たんの吸引とは	1	1
	(4) 人工呼吸器と吸引	2	2
	(5) 小児の吸引について	1	1
	(6) 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	0.5	0.5
	(7) 呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）	1	1
	(8) たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認	1	1
	(9) 急変･事故発生時の対応と事前対策	2	2
７　高齢者及び障害児･者の「たんの吸引」実施手順解説		8	8
	(1) たんの吸引で用いる器具･器材とそのしくみ、清潔の保持	1	1
	(2) 吸引の技術と留意点	5	5
	(3) たんの吸引に伴うケア	1	1
	(4) 報告及び記録	1	1
８　高齢者及び障害児･者の「経管栄養」概論		10	10
	(1) 消化器系のしくみとはたらき	1.5	1.5
	(2) 消化･吸収とよくある消化器の症状	1	1
	(3) 経管栄養法とは	1	1
	(4) 注入する内容に関する知識	1	1
	(5) 経管栄養実施上の留意点	1	1
	(6) 小児の経管栄養について	1	1
	(7) 経管栄養に関係する感染と予防	1	1
	(8) 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	0.5	0.5
	(9) 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	1	1
	(10) 急変･事故発生時の対応と事前対策	1	1
９　高齢者及び障害児･者の「経管栄養」実施手順解説		8	8
	(1) 経管栄養で用いる器具･器材とそのしくみ、清潔の保持	1	1
	(2) 経管栄養の技術と留意点	5	5
	(3) 経管栄養に必要なケア	1	1
	(4) 報告及び記録	1	1
	合計時間	50.0	50

（注1）中項目の時間配分は参考例　　（注2）大項目の必要時間数を確保すること。

カリキュラム（第一号研修・第二号研修）

２　基本研修（演習）

行　為		必要回数	実施回数
たんの吸引	口腔内の喀痰吸引（通常手順）	5 回以上	5
	鼻腔内の喀痰吸引（通常手順）	5回以上	5
	気管カニューレ内部の喀痰吸引（通常手順）	5 回以上	5
経管栄養	胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下型/半固形型）	※いずれも 5 回以上	5
	経鼻経管栄養	5 回以上	5
救急蘇生法		1 回以上	1

※「半固形型」栄養剤の実地研修を行う場合は、「滴下型」栄養剤及び「半固形型」栄養剤の演習をいずれも5回以上実施する

３　実地研修

（1）　第一号研修　　下記の行為すべてについて実地研修を修了すること。（人工呼吸器装着者に対する吸引を行わない場合は、人工呼吸器装着者に対する吸引を除く。）

（2）　第二号研修　　下記の行為いずれかについて実地研修を修了すること。

行　為		必要回数	実施回数
たんの吸引	口腔内の喀痰吸引（通常手順）	10回以上	10
	鼻腔内の喀痰吸引（通常手順）	20回以上	20
	気管カニューレ内部の喀痰吸引（通常手順）	20回以上	20
経管栄養	胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下型/半固形型）※	20回以上	20
	経鼻経管栄養	20回以上	20

※別紙「実施手順と評価」に基づき判定すること